

株価反発の中、日本の投信でどの様なファンドが買われたか、特にNISAで何が買われたか？

～既存投資家(投信全体)、新規投資家(NISA向けファンド、NISA向けレバレッジ投信)、つみたてNISA投資家(つみたてNISA適格投信)の投信フロー～

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾 健治
窪田 真美

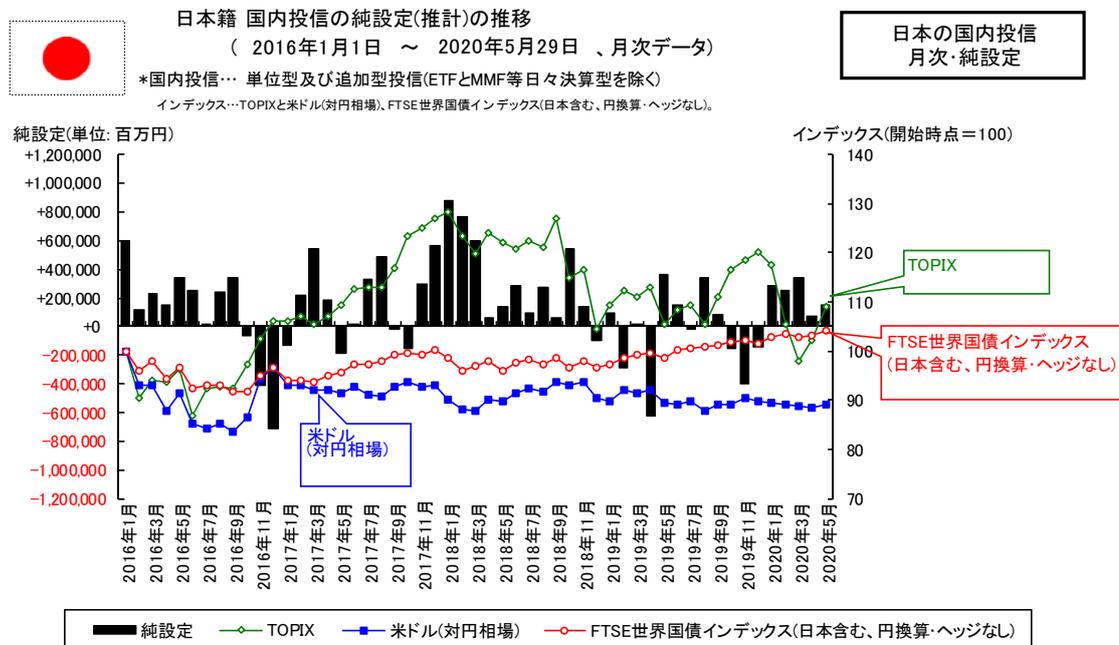
※三菱UFJ国際投信がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

株価反発の中、日本の投信でどの様なファンドが買われたか、特にNISAで何が買われたか？

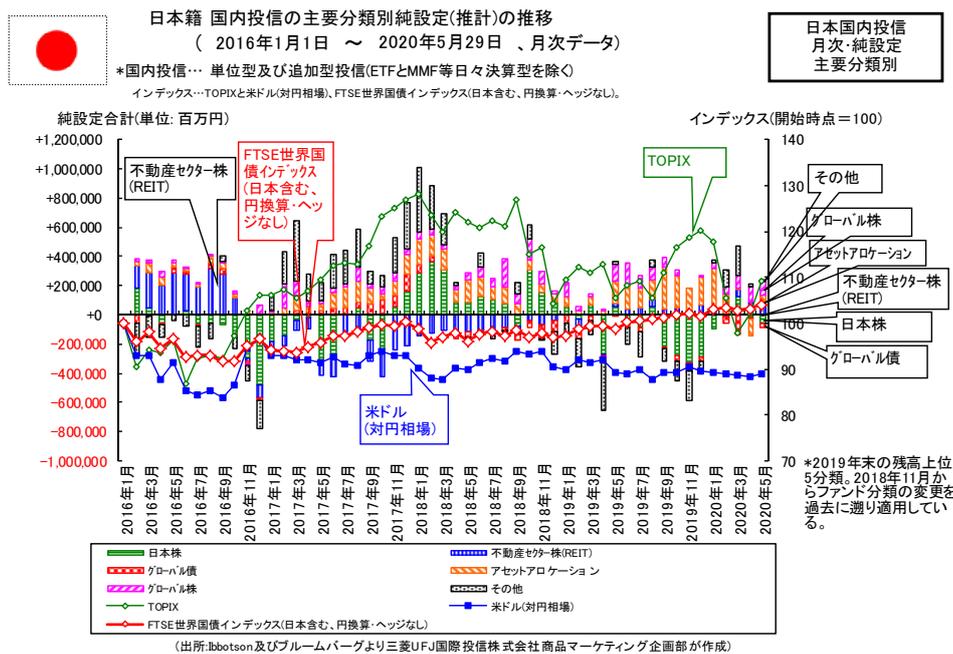
前回コラムでは日本の投信動向をETF及び私募投信を含め米国と比較しながら見た(2020年5月26日付日本版ISAの道 その306～URLは後述[参考ホームページ]①参照)。今回は日本の投信でどの様なファンドが買われたか、特にNISAで何が買われたかを見る。当コラムでは、投資家を「既存投資家」と「新規投資家」に分け、前者の「既存投資家」は投信全体のフローで代替、後者の「新規投資家」は「NISA向けファンド」(後述※2参照)で代替している。これは日本証券業協会が「NISAを利用する層としては、投資経験及び投資資金ともに豊富で比較的年齢の高い層だけでなく、投資経験が浅くまた投資資金が少ない若年層まで幅広く考えられる。」(URLは後述[参考ホームページ]②参照)と言っている事も参考としている。

<投信全体のフロー～既存投資家(投信全体)はグローバル株、REIT、米国株～>

まず既存投資家を示す投信全体(単位型及び追加型投信～ETFとMMF等日々決算型を除く～)の純設定(推計)は、最新2020年5月に+1538億円と前月4月の+674億円から2倍超となり、5カ月連続の純流入となった。



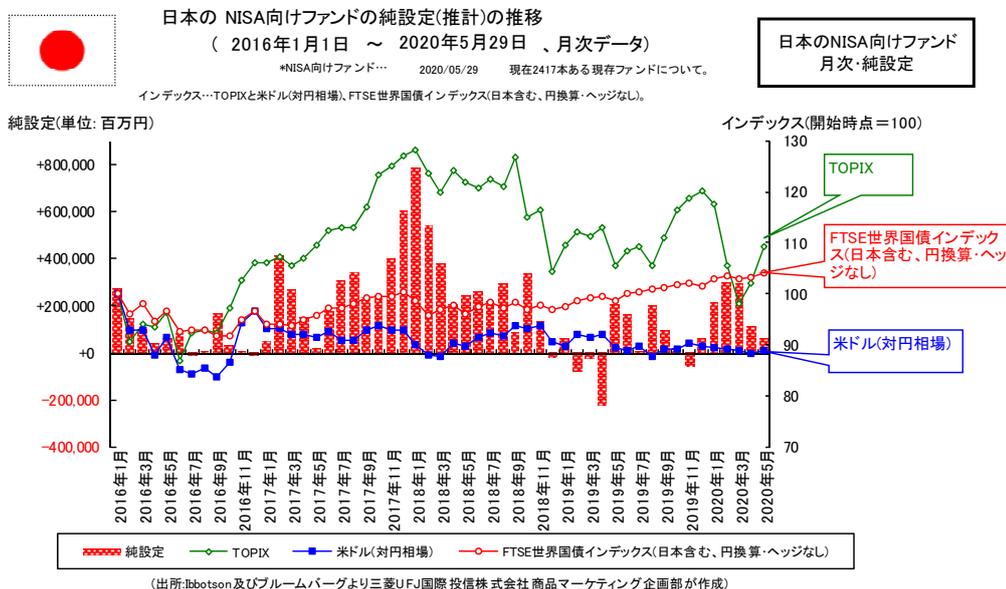
投資対象(主要分類～後述※1参照)別で見よう。2020年5月に純設定が最も大きかったのは前月4月に引き続き、グローバル大型株、不動産セクター株(REIT)、米国大型グロース株だった。一方、日本株は純設定が最も小さく、2ヶ月連続の純流出となっている。



※1: 主要分類…モーニングスター分類で2019年12月末の純資産の大きい上位5分類である。グローバル株は、2018年11月1日のグローバル分類の変更でグローバル大型株及びグローバル中小型株と分かれた為、グラフでは、従来通りの「グローバル株」として合算する。また、アセットアロケーション型は、「アセットアロケーション慎重型」、「アセットアロケーション柔軟型」、「アセットアロケーション標準型」、「アセットアロケーション積極型」、「アセットアロケーションその他」を合算。米国大型グロース株、テクノロジー・セクター株、公益セクター株、通信株、日本債などは「その他」に含む。

<NISA 向けファンドのフロー～新規投資家(NISA 向けファンド)はグローバル株、米国株、REIT～>

次に新規投資家を示す NISA 向けファンドの純設定を見る。最新 2020 年 5 月は+637 億円と、6 カ月連続の純流入も、昨年 12 月(+636 億円)以来の小さな純流入となった(*NISA 向けファンド…後述※2 参照)。昨年 12 月といえば、TOPIX が 2019 年 12 月 17 日に 1,747.20 と 2018 年 10 月 10 日以来高値を付けた時である。そして今年 3 月のコロナショックで、3 月 16 日に 1,236.34 と 2016 年 7 月 8 日以来安値を付けた後、反発、5 月 29 日に 1,563.67 と、3 月 16 日から+26.5%と上昇した。



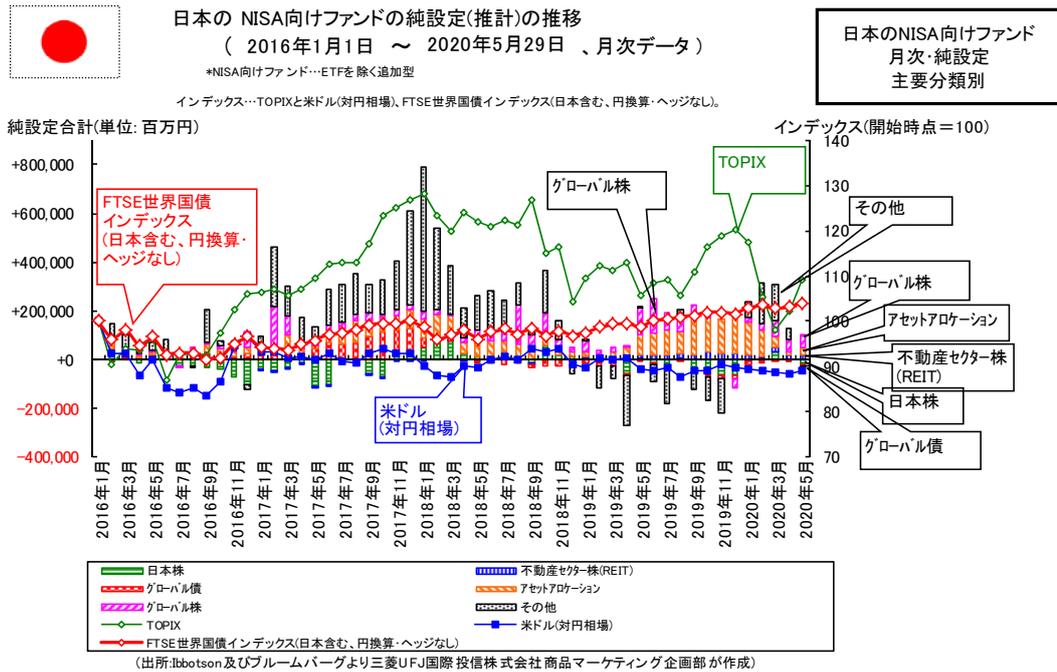
※2: NISA 向けファンド…

投資信託協会の言う「NISA 向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URL は下記参照)、2013 年 11 月末時点の契約型公募投信純資産が 1 兆円以上ある投信会社 17 社(*全 84 社の約 90%を占める)の株式投信(ETF を含む)で「NISA 向け」、「NISA 専用」、「NISA で選ぶ」、「NISA におすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013 年 4 月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。日本証券業協会は「NISA 制度の利用者にとって、短期間に金融商品の買換え(乗換え)を行う又は分配金再投資型の公募株式投資信託につき高い頻度で分配金の支払を受けるといった投資手法等は NISA 制度を十分に利用できない場合がある」(URL は下記参照)、投資信託協会は 2013 年 11 月 21 日に「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」の中で「NISA においては一般的に、投資未経験者層、或いは徐々に投資を行う層を意識して、比較的风险を抑えた商品」と言っている(URL は下記参照)。尚、2013 年 4 月以降と言うのは、NISA が含まれる税制改正(関連)法が 2013 年 3 月 30 日に成立・政省令公布されたため。また、単位型・限定追加型・年 1~2 回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年 1~2 回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年 1~2 回以外を除いている(*マネー・プールは年 1~2 回でも除いている)。こうした「NISA 向けファンド」を抽出した所、2020 年 5 月 31 日時点で 2417 本となった。



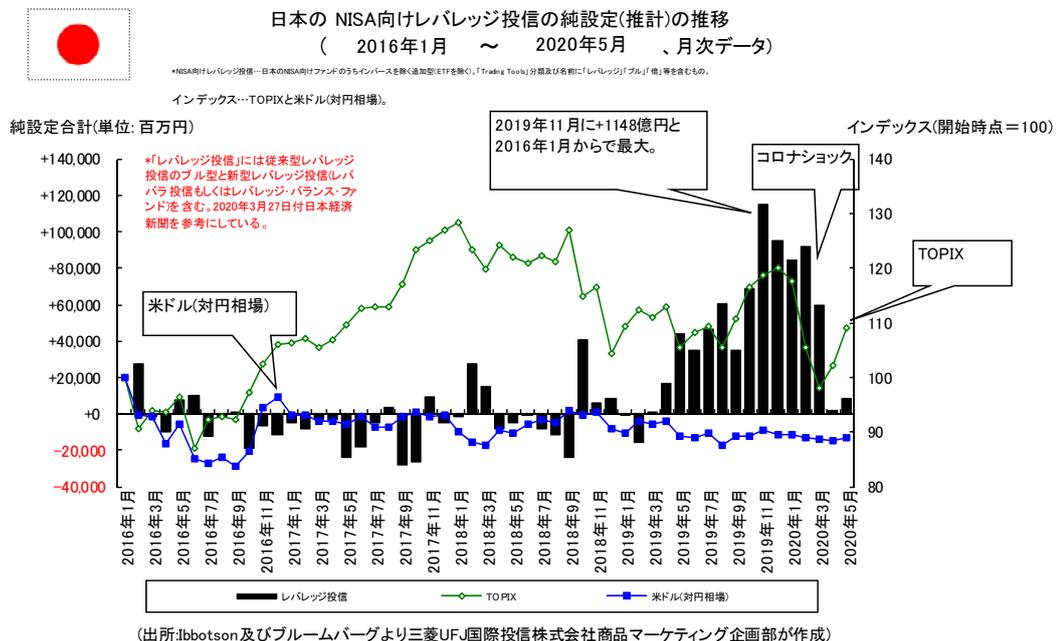
以下、参考 URL である。金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、2014 年 1 月 8 日付投資信託協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」…「<https://www.toushin.or.jp/mailmag/backnumber/>」、2019 年 4 月 26 日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshrase/files/nisaguideline.pdf>」、2013 年 11 月 21 日付投資信託協会「『NISA』の普及・拡大に向けた投資信託商品に関する調査」…「<http://www.toushin.or.jp/topics/2013/10055/>」、つみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179「積立 NISA の適格投信は全体の 1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の 1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「<https://www.am-mufg.jp/text/oshrase.170424.pdf>」。

この新規投資家と思われる投信の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。前述した既存投資家と思われる国内投信全体と同じ主要分類を用いると、5 月の純設定が最も大きかったのはグローバル大型株、次いで米国大型ブレンド株、不動産セクター株(REIT)だった(次頁グラフで、米国株は「その他」に含む~※1 参照)。グローバル株でも幅広く投資するファンドは好調だが、テクノロジーやヘルスケア、農業・インフラ・輸送等のセクター株は純流出が加速している。また、日本株は既存投資家と同様、2 カ月連続の純流出となった。

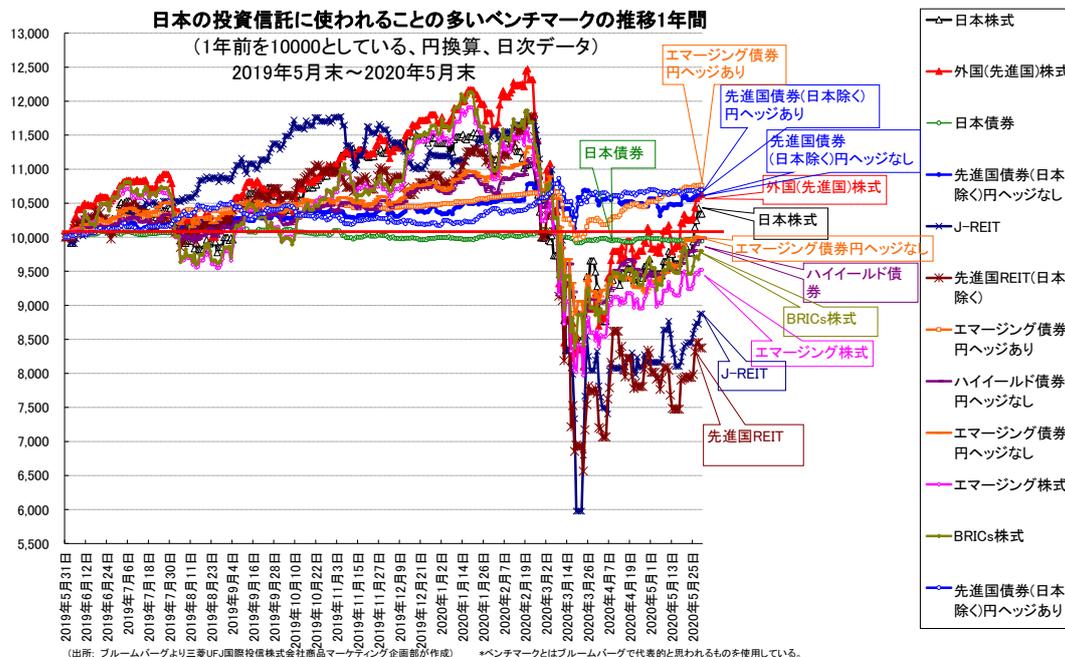


昨年、好調な純流入が続いたアセットアロケーションはコロナショックの3月以降、鈍化傾向である。ところで、世界の株式、REIT、債券に分散投資をしながら、先物による「レバレッジ(持ち高拡大)効果」で3倍のリターンを狙うファンドなど、レバレッジを活用したバランス型ファンド、「新型レバレッジ投信」もしくは「レババラ投信(レバレッジ・バランス・ファンド)」と言われるものはどうか?(2020年4月24日付日本版ISAの道その303を参照~URLは後述[参考ホームページ]①)。

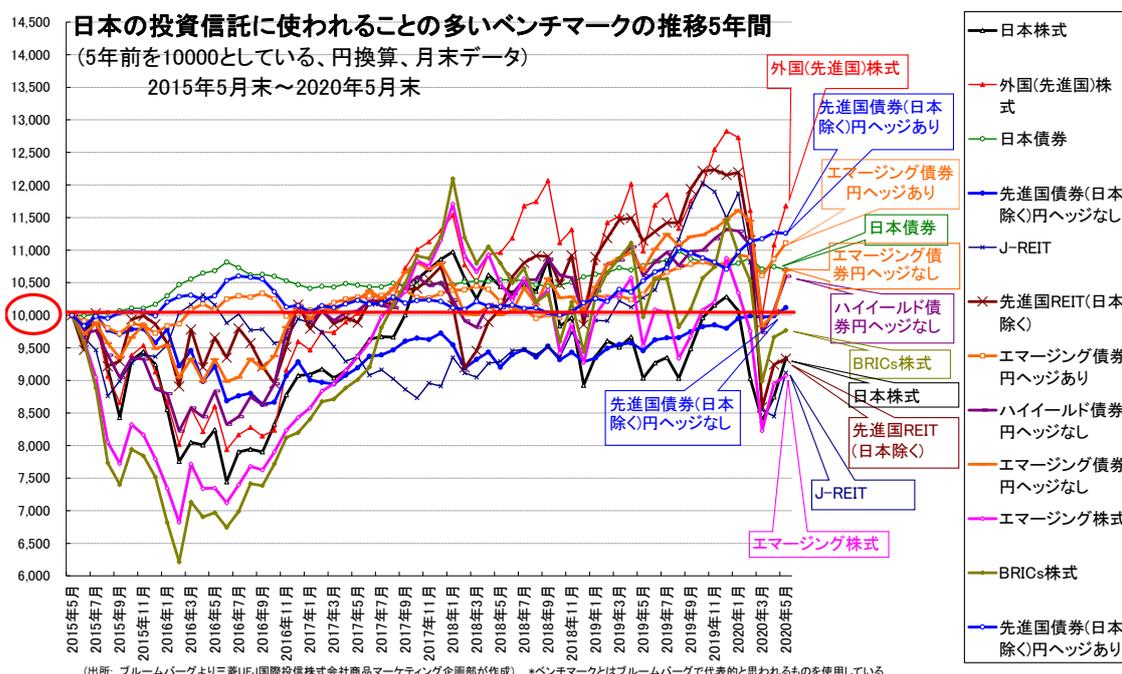
「レバレッジ投信」には従来型レバレッジ投信のブル型と新型レバレッジ投信(レババラ投信もしくはレバレッジ・バランス・ファンド)を含む。2020年3月27日付日本経済新聞(URLは後述[参考ホームページ]③)を参考にしている。その純設定(推計)を見たのが下記である。昨年2019年11月に+1148億円と2016年1月からのデータで最大となったが、コロナショックの翌月2020年4月に急減速、最新5月は+85億円だった(←前月4月+19億円←3月+595億円←2月+919億円)。



純設定とパフォーマンスの関係はどうか？ 日本の投信に使われる事の多いベンチマークのパフォーマンス推移を見た所、下記の通り、2020年5月末までの1年間のパフォーマンスで好い順に、エマージング債券円ヘッジあり、先進国債券、先進国株式、日本株式、エマージング債券円ヘッジなし、ハイイールド債券となっている(*グラフは1年前を10000としている、円換算、日次データ)。日本株は3年や5年でみれば下記グラフのベンチマーク中、下から4番目のパフォーマンスだったが、2020年5月の1カ月では3番目に好く、2020年2月末からの3カ月では最も好かった。



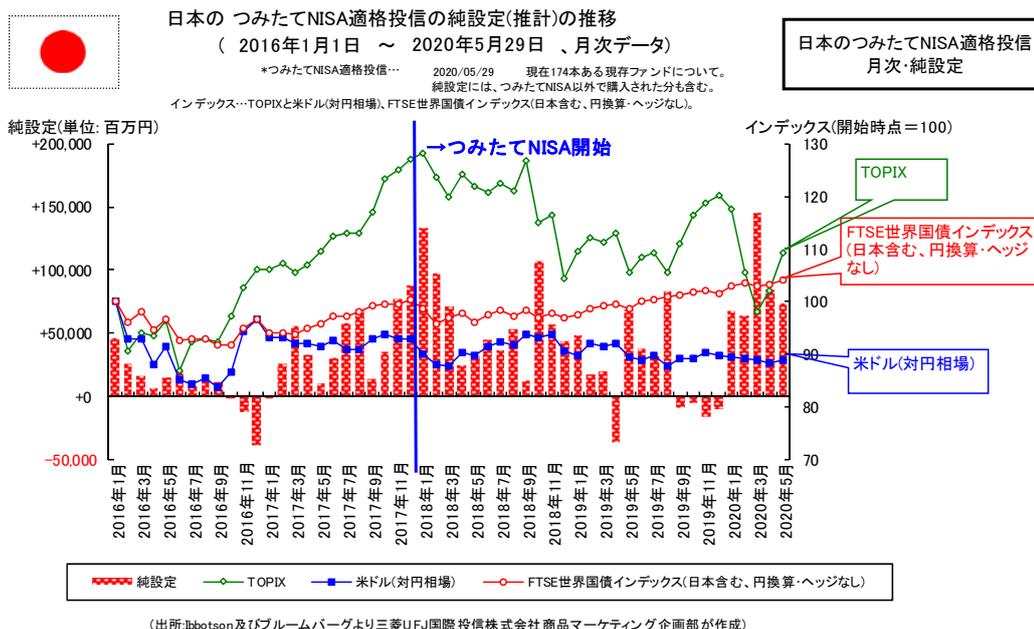
下記グラフは5年のパフォーマンスである。5年間のパフォーマンスは好い順に、先進国株式、先進国債券、エマージング債券円ヘッジあり、日本債券、エマージング債券円ヘッジなし、となっている(*グラフは5年前を10000としている、円換算、月末データ)。先進国株式は、2019年11月末からの半年では下記グラフのベンチマークの中、下から6番目だったが、5年や3年では、最も好いパフォーマンスとなっていた。



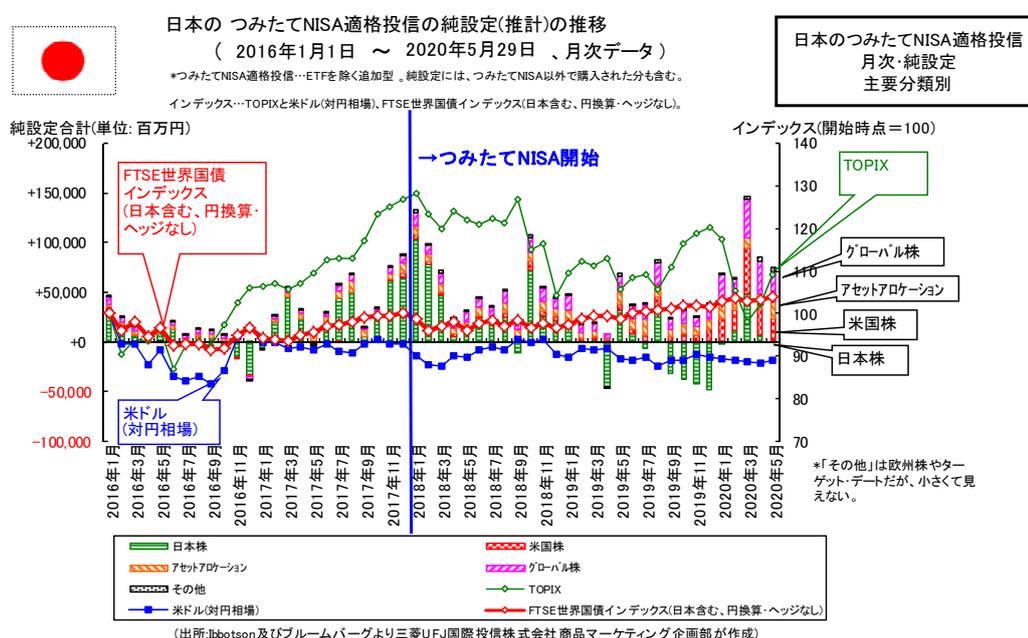
< NISA の投信フロー～つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)はグローバル株と米国株、アセットアロケーション)～>

最後に、つみたて NISA 適格投信を使い、つみたて NISA 投資家の純設定を見る(金融庁「つみたて NISA の対象商品」及びつみたて NISA の要件は 2017 年 4 月 24 日付日本版 ISA の道 その 179～後述[参考ホームページ]②参照)。 つみたて NISA 適格投信であり、つみたて NISA 以外で購入された分を含む(ETF を除く)が、分散・積立投資の資金動向を示すものとも思われる。

このつみたて NISA 投資家の投信純設定は、2020 年 5 月に+735 億円と前月 4 月(+844 億円)を若干下回るものの 5 カ月連続の純流入だった。



投資対象別で見る。 純設定の大きい順に、前月同様、5 月もグローバル株、次いで米国株、アセットアロケーションだった。 日本株は、小幅ながら 4 カ月ぶりの純流出。



以上、既存投資家(投信全体)、新規投資家(NISA 向けファンド)、つみたて NISA 投資家(つみたて NISA 適格投信)の投信フローに見てきた。株価反発傾向の中、日本の個人投資家はどうか? NISA/少額投資非課税制度)で何が買われたか?の参考になったら幸いである。また、投資の初心者や若年層を中心に多い「**どの商品を購入してよいかわからない**」(2020年2月13日付投資信託協会アンケート～後述[参考ホームページ]②参照)にも参考になったら幸いである。

以 上

[参考ホームページ]

①2020年5月26日付日本版ISAの道 その306「コロナ禍でも日米投信の命運を握る金融当局」…

「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_200526.pdf」、

2020年4月24日付日本版ISAの道 その303「新型コロナの中、米国でレバレッジ投信に史上最大の純流入!

SECは「最善の利益規制」維持とレバレッジ投信の精査を発表!!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_200424.pdf」、

②2019年12月20日付金融庁「NISA・ジュニア NISA 口座の利用状況調査 (2019年9月末時点)…

「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20191220/01.pdf>」、

2019年4月26日付日本証券業協会「NISA 制度の口座開設及び勧誘並びに販売時等における留意事項について(ガイドライン)」…「<http://www.jsda.or.jp/anshin/oshirase/files/nisaguideline.pdf>」、

2020年4月8日付日本経済新聞電子版「3月の投信、コロナショックでも資金流入超」…

「<https://r.nikkei.com/article/DGXMZ057608620T00C20A4000000?type=my#AwAUgzl0MDU3Nzg3NQ>」、

2020年2月13日付投資信託協会「投資信託に関するアンケート調査結果-2019年」…

「<https://www.toushin.or.jp/statistics/report/research2019/>」、

金融庁「つみたて NISA の対象商品」…「<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa2/about/tsumitate/target/index.html>」、

つみたて NISA の要件は 2017年4月24日付日本版ISAの道 その179「積立 NISA の適格投信は全体の1%以下でインデックス・ファンドばかり。これを米国に当てはめると、全体の1.6%でアクティブ・ファンドが半分超に!」…「https://www.am.mufg.jp/text/oshirase_170424.pdf」。

③2020年3月27日付日本経済新聞電子版「新型レバレッジ投信広がる」…

「<https://www.nikkei.com/article/DGXLASFL24HRLU0A320C2000000/>」。

三菱 UFJ 国際投信【投信調査コラム】日本版 ISA の道 バックナンバー…

「<https://www.am.mufg.jp/market/report/investigate.html>」、

「<https://www.am.mufg.jp/smp/market/report/investigate.html>」

～Google 等で「投信調査コラム」もしくは「日本版 ISA の道」と検索～

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 当資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、三菱UFJ国際投信が作成したものです。当資料は投資勧誘を目的とするものではありません。
- 当資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 当資料に示す意見等は、特に断りのない限り当資料作成日現在の筆者の見解です。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご留意ください。
- 投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- ・ TOPIX (東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。
- ・ FTSE世界国債インデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- ・ 「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。